伊勢物語 ●芥川●

あらすじ 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

第一段	第二段	第三段
昔、ある男が〔①　　〕女を〔②　　〕盗み出して、暗い中を逃げて来た。芥川という川に連れてくると、草の上の露を「あれは何ですか。」と女は聞いた。	目的地までまだ遠く、夜も更けた。〔③　　〕が鳴り響き、雨も激しく降るので、男は荒れ果てた蔵の奥に女を押し入れて、入り口で守っていたところ、〔④　　〕が女を食ってしまった。女は悲鳴をあげたが、〔③　　〕の音で男には聞こえなかった。〔⑤　　〕夜が明けて、蔵の奥を見ると女の姿がない。悔しがって泣くけれど、どうしようもない。「あれは何ですかとあの人が聞いたときに、露と答えて消えてしまえばよかった」と男は歌を詠んだ。	これは後の〔⑥　　〕が、従姉妹の女御に仕えるようにしていたところを男が盗んで連れ出したのだが、女の兄たちが聞きつけて取り返したのを〔④　　〕の仕業だと言ったのだった。

重要語句 次の語句の意味を答えなさい。

(1) よばふ

(2) かひなし

重要文法 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 傍線部の動詞の読みを、活用形に注意してひらがなで書きなさい。

(1) 女のえ得まじかりけるを（五八・2）

(2) 年を経てよばひわたりけるを（五八・3）

2 傍線部の助動詞を活用させて、正しい活用形にしなさい。

(1) 「かれは何ぞ。」となむ、男に問ひけり。（五八・6）

(2) 夜も更けぬければ（五八・7）

(3) 取り返し給うつけり。（五九・12）

3 傍線部の助詞の種類と意味を答えなさい。意味は、後ろの語群から適当なものをそれぞれ**一つ**選んで記号で答えなさい。

(1) 鬼ある所とも知らで（五八・7〜8）

(2) 神さへいといみじう鳴り（五八・8）

	種類	意味
(1)		
(2)		

ア 類推　イ 添加　ウ 打消接続

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 「女のえ得まじかりけるを」（五八・2）を助詞・助動詞に注意して現代語訳しなさい。

2 「かれは何ぞ。」（五八・6）について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 誰の発言か答えなさい。

(2) 「かれ」は何を指しているか答えなさい。

3 「神さへいといみじう鳴り」（五八・8）を現代語訳しなさい。

4 「行く先多く……ゐたりけるに」（五八・7〜五九・1）とあるが、この部分における男の心情の説明として**あてはまらないもの**を次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 夜も更け悪天候に見舞われて平静さを失っている。
イ 女を奪い返されることを心配している。
ウ 鬼への備えを万全にしようと勇んでいる。
エ 早く危険な状況から抜け出せることを願っている。

5 「え聞かざりけり。」（五九・2〜3）の現代語訳として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 女は鬼の声を聞くことができなかった。
イ 女は雷の音を聞くことができなかった。
ウ 男は鬼の声を聞くことができなかった。
エ 男は女の声を聞くことができなかった。

6 「足ずりをして」（五九・4）について、この行為に表れた男の心情を説明した次の文の空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

長年［A］、やっと連れ出した［B］を、［C］に食われてしまったことを［D］思う気持ち。

7 「白玉か」（五九・6〜7）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「人」とは誰のことか答えなさい。

(2) 「露」の縁語を答えなさい。

8 第三段落の内容について説明した次の文の空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

鬼の正体は後に［A］となる女の兄［B］と［C］であり、女を取り返しに来たのだった。